

# 業務の新聞

第45号 2019年 9月3日

## 第7回地本大会 終了！ 発言を基に申作成します

8月31日、第7回地本大会を開催し、この1年を振り返り向こう1年の方針を決定しました。

郷委員長はあいさつの中で「組合員の利益を守る」「会社施策を担う私たちが会社施策をシッカリ考えよう」「新たな仲間を迎えるために何が必要なのか」「皆さんの声を聞く立ち寄り行動」などに触れました。

質疑応答では10名の方から発言がありました。

特徴的には、①通勤に3時間かかる在来特急を通勤に使えるようにしてほしい。②JOB ローテーション・“新基地構想”などの会社施策実施で“安全”は大丈夫か、職場は不安と・不満・疑問であふれている、モチベーションもさがっている。「社員の幸せ」と会社は言うが“誰が”幸せになったのか。扶養認定範囲拡大の実現を望む。③年構成上分会維持難しい。④エルダー社員制度にある“短日数勤務”が適用されない、“資格手当”がエルダー社員にだけ支払われない。⑤会社施策で業務は軽減されるどころか煩雑になり増加している。“会社の仕事”が雑になっている。⑥熱中症対策・冷水器整備が不十分だ。⑦様々な業務委託、職場は大丈夫か。⑧エルダー社員の業務がキツイ、仕事を辞める人も多くなっている。⑨エルダー先でも組合加入率が低下している、職場の声が上に届かない。トップダウンばかりだ。“本体エルダー”具体的な業務内容が示されない、現場長裁量とも言われている、これでは選択できない。⑩まだエルダー先の提示無い、今の駅は“年配者”は蚊帳の外に置かれている。などの発言がありました。

第7回大会における発言をもとに「申」を作成します。

制度・施策の内容、職場環境改善、職場・労務管理など多岐にわたる内容になりますが「否定的内容」を放置したままでは仲間たちの利益を守ることは出来ません。

また、せっかく制度があるにもかかわらず、その目的を果たすことのできないものの改善に本部・各協議会と協力し取り組みます。

2020Tokyo オリンピック・パラリンピックを目前に、首都圏輸送に関する具体的な内容は、会社からいまだ明らかにされていません。

「労働条件に関する案件」以外は、労働組合には、提示する必要はないとこの会社の経営陣は考えているとおっしゃる方もいますが、日々職場で奮闘している仲間たちの声に応えるために、様々な機会で会社に対して問題提起を行い“改善”を“実現”するために取り組みを進めていきます。

## コミュニケーション！？

「コミュニケーションの質的向上」とこの間の団体交渉で、支社の各企画部門に在籍している方々はおっしゃっています。そろそろ“改善”を実現するために「コミュニケーションの質的向上」に基づく行動を展開して頂くタイミングだと考えます。

社員と家族を幸せにするために、会社は持てるそのチカラを大いに発揮すべきだと考えます。

職場からドンドンと会社施策や殖田の将来について職場管理者の方と話してください。ここが第一歩です。